

旧久留米藩士族と国営安積開墾事業

旧久留米藩士族の入植について、みてみよう。

大久保利通と国営安積開墾事業

明治11年(1878)3月6日に内務卿大久保利通は、「一般殖産及華士族授産之儀ニ付伺」を太政大臣三条実美^{さねとみ}に提出した。翌3月7日に具体的な案として「原野開墾之儀ニ付伺」を提出した。同年3月11日に実質的な決定がなされた。「福島県安積郡字対面原及接近諸原野」が開墾地となり、具体的に動き出そうとしていた。

明治11年5月14日、大久保利通が不平士族により斬殺された。安積開墾事業を進めていた大久保の死により、開墾事業は当初の規模から縮小されながら実施されていく。



大久保利通
出典：国立国会図書館
「近代日本人の肖像」
(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>)
旧薩摩藩士。初代内務卿。

一般殖産及華士族授産之儀ニ付伺
『公文録・明治十一年・第二十九巻・明治十一年三月・
内務省伺(一)』(国立公文書館所蔵)より抜粋
読点「、」中点「・」を加えた。
原文の細字2行の箇所を()1行とした。

一般殖産及華士族授産之儀ニ付伺
国土固有ノ物産ヲ改良シ、国人恒有ノ産業ニ安シ、以テ
国家ノ元氣ヲ養成スルモノ百務中ノ最急ナルハ、更ニ
タヲ要セス、夫レ農・耕・種・芸・牧・畜及ヒ紡績等ノ雑工ヲ総稱スハ本邦ノ根基ニ
シテ、百事之ニ由テ成ル、然ルニ、近來虚薄ノ世弊利ヲ稍末
ニ競争シ、其根本ニ勉メサルヨリ、固有ノ農産漸ク廃タル、
今ニシテ之ヲ拯ハスンハ、将来国家ノ元氣ヲ損シ、其衰耗
ノ状、果シテ如何「且夫レ華士族ヲ通觀セハ、其恒産ヲ有ス
ル者、実ニ千中ノ二、三ニ及ハス、多クハ徒食放懶ニシテ居
常鬱屈不平ヲ衡ム、禍機ノ陰晦潜隠スル、蓋シ之ヲ淵叢ト
セン、今ニシテ之ヲ済ハスンハ他日国家ノ元氣ヲ害シ、其
惨毒ノ微、果シテ如何」此ヲ思ヒ彼ヲ慮ル甚タ憂慮ニ堪ヘ
サルナリ、曩ニ禄制改定ノ時、盛意ニ休シ授産局ヲ省中ニ
置キ除次其方法ヲ按スルノ際、国事ノ非常ニ遭遇シ、空ク
今日ニ在リ、今や海内静定ニ帰シ、士族ハ故套ヲ稍ク
脱シ、新好位置ヲ占ンテ欲シ、民庶ハ浮華ヲ已ニ厭ヒ、着実
事業ニ服センヲ願フ、禍福其地ヲ転換セシム、今ヲ即チ時
機トセン、請フ能ク此機ヲ愆ラス、授産ノ方ヲ設ケニ族ヲ
誘ヒ、開墾ノ法ヲ厚シテ農事ヲ改良シ、以テ元氣ヲ旺盛
ナラシメ、以テ国力ヲ伸張セラレンヲ、乃チ其方法ノ大要
ヲ草シ、謹テ之ヲ上呈ス、但シ其經費ノ概計六百万円此九分通
リハ返納ニ係ルモノタルモ」ノ巨額ニ就テハ方今國費多端ノ際、稟議ス
ルニ忍ヒスト雖トモ、他年利害ノ由ル所目下施行ノ如何ニ
在ルヲ深思熟慮スルニ於テハ顧念スルニ遑アラス、敢テ
之ヲ上稟ス、俯シテ願クハ非常ノ廟議ヲ尽サレ裁可ノ指
令アランコトヲ、依テ別紙相添此段相伺候也

明治十一年三月六日
内務卿大久保利通
太政大臣三条実美殿
追テ本文御裁可ノ上毎事着手ノ節ハ詳細ノ儀取調可
相伺候得共、爰ニ第一等ヨリ三等迄人費予算及方法概
略以下ヲ添ヘ供電聞候也

久留米開墾率先百戸

旧久留米藩士族が入植した時期は、国営安積開墾事業の実施が大きく揺らいでいた。内務卿大久保利通により開墾事業が具体的に動こうとしている中、大久保が暗殺された。大久保亡き後、太政官での正式決定をしていないが、大久保の構想を継承せざるをえないという状況の中で、旧久留米藩士族は入植をした。

後に、旧久留米藩士族も国営安積開墾事業の中に認められ、「率先百戸」と称揚された。



久留米開墾率先碑
郡山市開成二丁目の国道49号線脇に建つ碑は、大正7年(1918)に建立された。